

和歌山工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	0039		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	環境都市工学科		対象学年		3		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	「政治・経済」(第一学習社)、配布プリント資料。						
担当教員	小田 憲,赤崎 雄一						
到達目標							
情報・資料の読解能力を身につけ、主権者として自らの生活と生き方と関わって認識を高める。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1		情報・資料の読解ができる		情報・資料の基礎的な読解ができる		情報・資料の読解ができない	
評価項目 2		主権者として自らの生活と生き方と関わって認識を高められる		主権者として自らの生活と生き方と関わって基礎的な認識を高められる		主権者として自らの生活と生き方と関わって認識を高められない	
学科の到達目標項目との関係							
A							
教育方法等							
概要		1 8 歳選挙権による政治参加という視点から、政治経済の基本的仕組みの歴史を理解しながら、現代政治・経済の動きを理解できるようにすることを目指す。					
授業の進め方・方法		「政治・経済」に関わって世界や国内で起こったニュースを適宜教材化して授業で取り上げる。					
注意点		事前学習: 政治経済に関わるニュースに接しておく。事後学習: 授業中に配付した資料を見直し、授業で得た知識を基にさらに色々な報道等で知識を深める。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	政治・経済をどのように学ぶか。-18歳選挙による政治参加に関わって-			授業内容を理解できる	
		2週	日本国憲法の源流として－イギリスの市民革命の歴史を学習。			授業内容を理解できる	
		3週	日本国憲法の源流として－社会契約説の思想家ホッブス・ロック・ルソ-の考え方を学習。			授業内容を理解できる	
		4週	日本国憲法の源流として－アメリカの独立戦争とアメリカ独立宣言			授業内容を理解できる	
		5週	日本国憲法の源流として－フランス革命と人権宣言			授業内容を理解できる	
		6週	日本国憲法の源流として－ワイマール憲法と社会権			授業内容を理解できる	
		7週	日本国憲法成立の背景として－自由民権運動から大正デモクラシー			授業内容を理解できる	
		8週	日本国憲法成立の背景として－15 年戦争の歴史と戦争の実相			授業内容を理解できる	
	2ndQ	9週	前期中間試験				
		10週	敗戦と日本国憲法成立過程			授業内容を理解できる	
		11週	日本国憲法の柱－国民主権の原理と象徴天皇制			授業内容を理解できる	
		12週	日本国憲法の柱基本的人権－自由権・平等権・社会権			授業内容を理解できる	
		13週	日本国憲法の柱平和主義－憲法前文と第九条			授業内容を理解できる	
		14週	日本国憲法の柱平和主義－第九条と戦後日本の動き			授業内容を理解できる	
		15週	答案返却と解説				
		16週					
後期	3rdQ	1週	日本の政治制度と三権分立			授業内容を理解できる	
		2週	三権分立－国会と選挙制度			授業内容を理解できる	
		3週	三権分立－内閣と官僚制度			授業内容を理解できる	
		4週	三権分立－裁判所と違憲立法審査権			授業内容を理解できる	
		5週	地方自治制度と住民の権利			授業内容を理解できる	
		6週	政党政治と戦後の歩み			授業内容を理解できる	
		7週	民主政治と世論－マスコミのあり方－			授業内容を理解できる	
		8週	後期中間考査				
	4thQ	9週	国際連合の成立とその歩み			授業内容を理解できる	
		10週	国際政治の動向－冷戦体制			授業内容を理解できる	
		11週	国際政治の動向－冷戦後の世界の動き			授業内容を理解できる	
		12週	国際紛争と難民問題－パレスチナ問題			授業内容を理解できる	
		13週	核兵器開発と核廃絶の動き			授業内容を理解できる	
		14週	政経学習のまとめ-21世紀を生きる主権者として-			授業内容を理解できる	

		15週	答案返却と解説			
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後14
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前1,前15,後7,後8,後15
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	後9,後10,後11,後12,後13,後14
			技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	後11,後12,後13,後14	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	前1,後1,後4,後13,後14
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	後13
評価割合						
		定期試験		発表・提出物	合計	
総合評価割合		80		20	100	
配点		80		20	100	